

2025年度（2026年3月期） 第2四半期決算説明会

シチズン時計株式会社
2025年11月12日



第2四半期累計（4-9月）業績概要	連結業績概要 5
	セグメント別業績概要 6
第2四半期（7-9月）業績概要	連結業績概要 8
	セグメント別業績概要 9
	時計事業 10
	工作機械事業 15
	デバイス事業 19
下期及び通期業績予想	連結業績予想 21
	セグメント別業績予想 22

広報IR担当の小林です。

2025年度第2四半期の業績の概要を説明いたします。

2025年度第2四半期累計（4-9月）業績概要 増収増益

- 時計事業 北米を中心に“シチズン”と“ブローバ”ブランドが計画を上回り好調に推移
北米の増収と自社EC比率向上に加え、販売単価上昇なども寄与し大幅増益
- 工作機械事業 海外市場が堅調に推移

2025年度通期業績予想 上方修正

- 売上高 3,180億円 ⇒ 3,270億円（+90億円）
- 営業利益 200億円 ⇒ 245億円（+45億円）
- 経常利益 220億円 ⇒ 290億円（+70億円）
- 親会社株主に
帰属する当期純利益 200億円 ⇒ 220億円（+20億円）
- 想定為替レート 1USD 145円
1EUR 160円 ⇒ 170円

こちらが今回の決算発表のポイントとなります。

第2四半期累計の連結業績は増収増益となりました。
また、通期業績予想につきましては、第2四半期累計の業績の上振れや想定為替レートの変更などを反映し、上方修正いたします。

2025年度第2四半期累計（4－9月期）業績概要



それでは、まず、第2四半期累計期間の連結業績についてご説明いたします。

第2四半期（4-9月）増収増益

(単位：億円)	2024年度	2025年度	前年同期比	
	上期実績	上期実績	増減額	増減率
売上高	1,565	1,592	+27	+1.7%
営業利益	123	129	+6	+5.3%
営業利益率	7.9%	8.2%	-	-
経常利益	122	161	+39	+32.0%
親会社株主に帰属する 中間純利益	122	118	▲3	▲3.3%
為替レート	¥154/USD	¥146/USD		
	¥167/EUR	¥167/EUR		

5

第2四半期累計期間の連結業績の概要になっております。

売上高は、時計事業と工作機械事業が堅調に推移し、1,592億円、前年比1.7%の増収となりました。

営業利益は、主に時計事業の収益性改善が進んだことで、129億円、前年比5.3%の増益となりました。営業利益率は8.2%となりました。

経常利益は、為替差益の増加などにより、161億円と前年比32.0%増となりました。

親会社株主に帰属する中間純利益は、118億円と、前年比3.3%減となりました。

2025年度第2四半期累計（4-9月）セグメント別業績概要

CITIZEN

（単位：億円 / %：営業利益率）

売上高	2024年度	2025年度	前年同期比		セグメント	業績
	2Q累計実績	2Q累計実績	増減額	増減率		
時計事業	857	893	+36	+4.2%	■ 時計事業	【増収増益】
工作機械事業	373	385	+11	+3.0%	■ 工作機械事業	【増収減益】
デバイス事業	333	313	▲20	▲6.0%	■ デバイス事業	【減収減益】
合計	1,565	1,592	+27	+1.7%		
営業利益						
時計事業	96 (11.3%)	117 (13.2%)	+21	+21.9%		
工作機械事業	30 (8.1%)	26 (6.9%)	▲3	▲12.0%		
デバイス事業	27 (8.3%)	16 (5.2%)	▲11	▲41.8%		
消去又は全社	▲31	▲30	+0	-		
合計	123 (7.9%)	129 (8.2%)	+6	+5.3%		

6

事業セグメント別の業績です。

経済情勢など先行きが不透明な状況が続いている中、時計事業は、売上高は893億円、前年比4.2%の増収、営業利益は117億円、前年比21.9%の増益、営業利益率は13.2%となりました。

工作機械事業は、海外市場が増収となり、売上高385億円、前年比3.0%の増収、営業利益は26億円、前年比12.0%の減益となりました。

デバイス事業は前年同期にまとまった納品があったフォトプリンターの反動減を受け、減収減益となっております。

2025年度第2四半期（7－9月期）業績概要



続いて、第2四半期、3カ月間の連結業績についてご説明いたします。

第2四半期（7-9月）増収増益

(単位：億円)	2024年度	2025年度	前年同期比	
	2Q(7-9月)実績	2Q(7-9月)実績	増減額	増減率
売上高	806	839	+33	+4.1%
営業利益	76	82	+6	+8.4%
営業利益率	9.5%	9.9%	-	-
経常利益	49	100	+51	+103.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	37	26	▲10	▲27.9%
為替レート	¥153/USD ¥166/EUR	¥147/USD ¥171/EUR		

8

売上高は、839億円、前年比4.1%の増収となりました。

営業利益は、82億円、前年比8.4%の増益となりました。営業利益率は9.9%となりました。

経常利益は、為替差益の増加等により100億円と前年比103.9%増となりました。

なお、当社の連結子会社であるシチズン・ウォッチ・カンパニー・オブ・アメリカが、腕時計の輸入に関して、関税の計算にかかる考え方の相違から、米国国土安全保障省税関・国境取締局より通知と請求を受けたため、過年度関税等及び過年度関税等引当金繰入額を計上しております。

その結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は、26億円と、前年比27.9%減となりました。

2025年度第2四半期（7-9月）セグメント別業績概要

CITIZEN

（単位：億円 / %：営業利益率）

		2024年度	2025年度	前年同期比		セグメント	業績
		2Q(7-9月)実績	2Q(7-9月)実績	増減額	増減率		
売上高							
	時計事業	441	478	+37	+8.4%	■ 時計事業	【増収増益】
	工作機械事業	194	195	+0	+0.3%	■ 工作機械事業	【増収減益】
	デバイス事業	170	165	▲4	▲2.6%	■ デバイス事業	【減収減益】
合計		806	839	+33	+4.1%		
営業利益							
	時計事業	59 (13.5%)	73 (15.4%)	+14	+24.0%		
	工作機械事業	17 (8.8%)	11 (5.9%)	▲5	▲32.8%		
	デバイス事業	15 (9.2%)	12 (7.3%)	▲3	▲22.6%		
消去又は全社		▲15	▲14	+1	-		
合計		76 (9.5%)	82 (9.9%)	+6	+8.4%		

9

次に事業セグメント別の業績です。

時計事業は、売上高は478億円、前年比8.4%の増収、営業利益は73億円、前年比24.0%の増益、営業利益率は15.4%となりました。

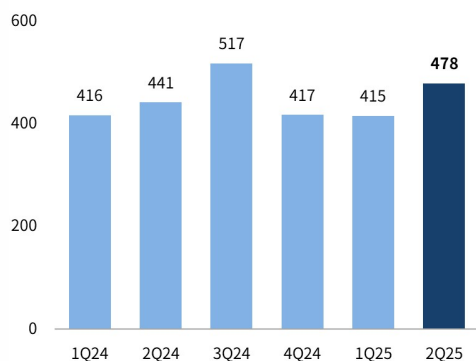
工作機械事業は、売上高195億円、前年比0.3%の増収、営業利益は11億円、前年比32.8%の減益となりました。

デバイス事業は前年同期にまとまった納品があったフォトプリンターの反動減を受け、減収減益となっております。

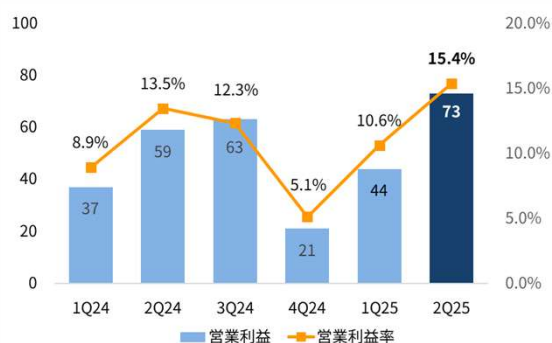
第2四半期（7-9月） 増収増益

- 完成品(シチズン) 国内市場は、内需が伸び悩んだほかインバウンド需要が想定を下回り、減収
海外市場は、欧米が好調に推移し、アジアも市況は低調ながらも販売が増え、増収
- 完成品(ブローバ) 主力の北米を中心にブランド創業150周年をフックとした販売施策が奏功し、大幅増収
- ムーブメント アナログクォーツムーブメントが堅調かつ機械式ムーブメントも好調に推移し、増収

売上高 (億円)



営業利益 (億円)・営業利益率



10

それでは、時計事業の概況をご説明いたします。

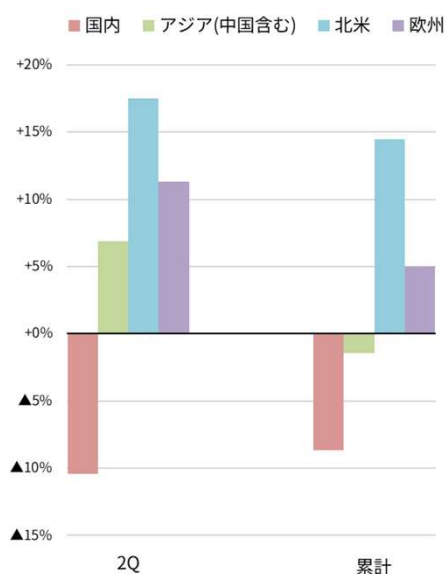
完成品販売のうちシチズンブランドにつきまして、国内市場は、内需が伸び悩んだほかインバウンド需要も想定を下回り、減収となりました。

一方、海外市場は、グローバルサブブランドの貢献などもあり欧米が好調に推移したほか、アジアも全体的な市況は依然として低調ながらも一部市場の販売が増え、増収となりました。

ブローバブランドは、ブランド創業150周年関連の販売施策が功を奏し、北米において主要流通である百貨店やジュエリーチェーン流通に加え、自社ECも好調に推移し、大幅増収となりました。

ムーブメントは、アナログクォーツムーブメントが堅調に推移したほか、機械式ムーブメントの販売が伸び、増収となりました。

前年同期比増減率 (現地通貨ベース)



※ 北米のみシチズンブランドとブローバブランドを合算した増減率
その他の地域はシチズンブランドのみの増減率

地域別販売状況 (7-9月)

地域	前年 同期比	詳細
国内	【減収】	レディースブランドの『クロスシー』や『ザ・シチズン』などのプレミアムブランドは堅調に推移。一方でメンズブランドの『アテッサ』の高価格帯モデルが伸び悩んだほか、インバウンド需要も想定を下回った。
アジア (中国含む)	【増収】	市況は低調ながらも、香港などの一部市場の販売が増えたほか、タイやインドでは、機械式時計が堅調に推移。
北米	【増収】	シチズンブランド、ブローバブランド共に百貨店や宝飾チェーンなどの主力流通が好調に推移したほか、自社ECの販売拡大が継続。シチズンブランドでは『アテッサ』や『シリーズエイト』が大きく伸長。
欧州	【増収】	機械式時計の新商品 Zenshin コレクションが牽引し、好調を維持したほか『プロマスター』の販売も拡大。

11

こちらは、現地通貨ベースの地域別売上高の伸び率です。

赤色の国内は、レディースブランドの『クロスシー』や『ザ・シチズン』などのプレミアムブランドは堅調に推移した一方で、メンズブランドの『アテッサ』の高価格帯モデルが伸び悩んだほか、インバウンド需要も想定を下回り、減収となりました。

緑色のアジアは、香港などの一部市場の販売が増えたほか、タイやインドでは、機械式時計などが堅調に推移し、増収となりました。

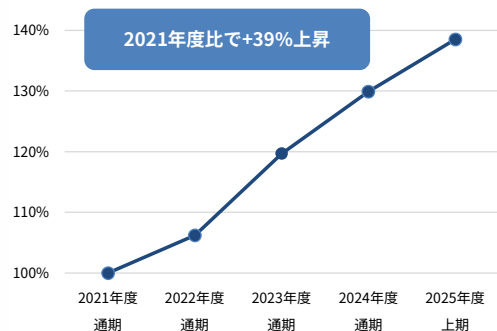
青色の北米は、シチズンブランド、ブローバブランド共に、時計専門店や百貨店向けの販売が好調に推移したほか、自社ECの販売拡大が継続し、増収となりました。シチズンブランドでは、本格投入を行った『アテッサ』や機械式ブランドの『シリーズエイト』などが引き続き販売を伸ばしました。

紫色の欧州は、ゼンシンなど機械式時計の新商品が販売を牽引し好調を保ったほか、グローバルサブブランドである『プロマスター』の販売が拡大し、増収となりました。

ブランド提供価値向上による販売単価上昇

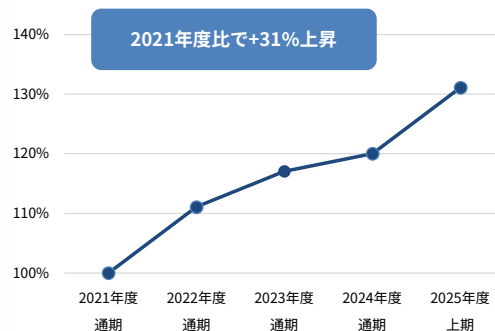
- 国内 『アテッサ』や『クロスシー』など中価格帯の製品ミックス改善が進んだことに加え、『ザ・シチズン』などのプレミアムブランドも貢献し、販売単価は上昇傾向
- 北米 シチズンブランドでは『アテッサ』や『シリーズエイト』などの高単価サブブランド、ブローバブランドもブランド創業150周年を迎え高付加価値製品の導入が進み、販売単価が上昇

国内販売単価増減率



※ 2021年度を基準とした国内のシチズンブランドの販売単価増減率

北米販売単価増減率(現地通貨ベース)



※ 2021年度を基準とした北米のシチズン及びブローバブランドの販売単価増減率(現地通貨ベース)

12

次に、主要2地域の販売単価の推移をご説明いたします。

国内では、『アテッサ』や『クロスシー』などの中価格帯の製品ミックス改善が進んだことに加え、『ザ・シチズン』などのプレミアムブランドも貢献し、販売単価は2021年度比で39%上昇しました。

北米では、『アテッサ』や『シリーズエイト』など、従来よりも販売単価の高い1,500ドル以上のサブブランドの新規導入が進んだシチズンブランドに加えて、今年ブランド創業150周年を迎えたブローバブランドも、より付加価値の高い製品の導入が進むなど、2021年度比で現地通貨ベースで31%の単価上昇となっております。

『ザ・シチズン』30周年記念限定モデル

- 移ろいゆく自然の情景の美しい一瞬を、土佐和紙を用いた文字板で表現した「Iconic Nature Collection」
- 発年差±5秒の高精度エコ・ドライブムーブメントを搭載
- ケースには軽量で耐傷性に優れたスーパーチタニウム™を使用



発売日 : 2025年10月9日
価 格 : 希望小売価格 451,000円～473,000円(税込)
限定数量 : 世界限定各400本

13

続きまして、時計事業のトピックスです。
まず、『ザ・シチズン』です。

1995年に人生に寄り添う時計として誕生した『ザ・シチズン』は、2025年に30周年を迎えました。

移ろいゆく自然の情景の美しい一瞬を土佐和紙を用いた文字板で表現した「アイコンックネイチャーコレクション」から、『ザ・シチズン』30周年記念 限定2モデルを2025年10月9日に発売いたしました。

いずれのモデルも、年差±5秒の高精度エコ・ドライブムーブメントを搭載し、ケースには軽量で耐傷性に優れたスーパーチタニウム、ストラップにはレザーワーキンググループ認証を受けたタンナーで生産されたワニ革を使用しています。

今年度を通して「30周年」をフックとして、シチズンの最高峰ブランドとしての世界観を醸成していきます。

『シチズン クロスシー』 北川景子さんが初めてデザインを監修した限定モデル

- イメージキャラクターを務める北川景子さんがデザインを監修した限定モデルを発売
- 発売日より3日間、東京・表参道にて『シチズン クロスシー』の人気モデルを試着することができるPOP-UPイベントを開催



CITIZEN



発売日 : 2025年10月3日
価 格 : 希望小売価格 143,000円(税込)
限定数量 : 1,500本

14

次に、レディスウォッチブランドの『シチズン クロスシー』です。

2012年にイメージキャラクターに就任して以来、長年『クロスシー』をご愛用いただいている北川景子さんならではの視点で、初めてデザインを監修した特別な限定モデルを発売いたしました。

軽量でキズに強く、肌に優しいスーパーチタニウムのケースとバンドには、肌を明るく、美しくみせるシチズンだけのサクラピンクを採用しております。

10月3日に発売されたこのモデルは、当社からの出荷ベースでは完売となっております。

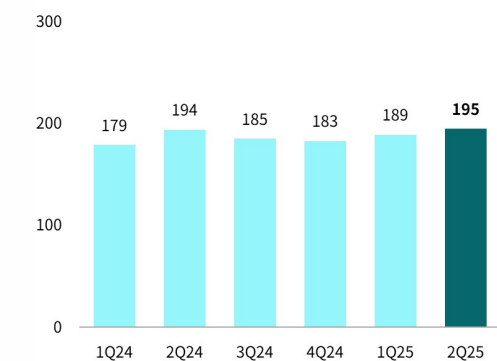
また、発売日より3日間、東京・表参道にて『クロスシー』の人気モデルを試着することができるPOP-UPイベントを開催し、多くのお客様ご来場いただきました。

引き続きサブブランドを活用したシチズンブランドの付加価値向上に取り組んでまいります。

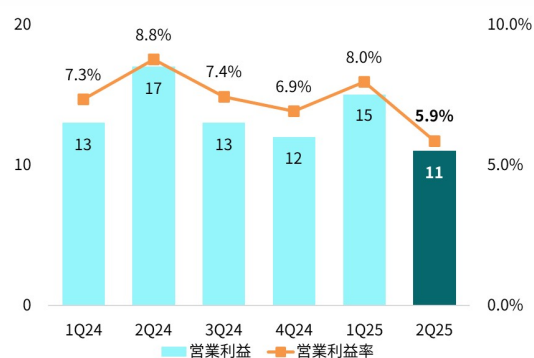
第2四半期（7-9月） 増収減益

- 国内市場 市況に底打ち感は見られるものの、主に自動車関連の低迷が続き、減収
- 海外市場 米州は医療関連の販売が好調に推移し、欧州も医療関連が堅調かつミヤノブランドが伸長。アジアは中国向けの販売が伸び、海外市場全体で、増収

売上高 (億円)



営業利益 (億円)・営業利益率



15

続いて工作機械事業です。

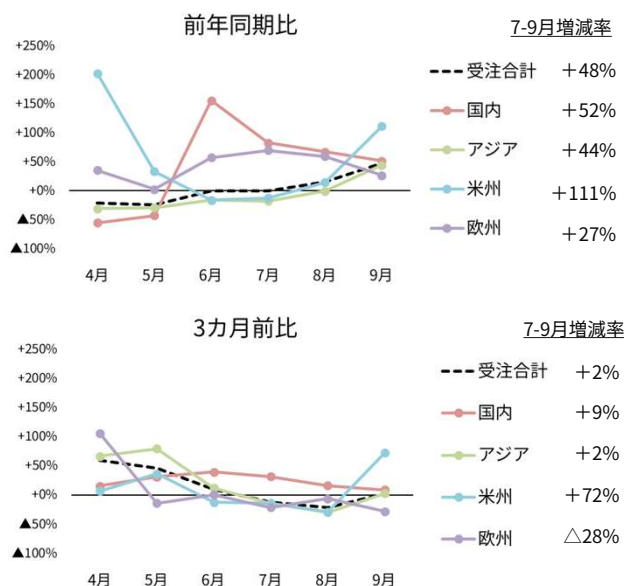
売上高は195億円、0.3%の増収、営業利益は11億円、32.8%の減益となりました。

国内は、市況に底打ち感は見られるものの、主に自動車関連の低迷が続き、減収となりました。

海外につきましては、米州は医療関連の販売が好調に推移し、欧州も医療関連が堅調だったほか、ミヤノブランドが伸長しました。また、アジアは中国向けの販売が増え、海外市場全体で、増収となりました。

営業利益は、販売単価の低いアジアの構成比が高い状況にあることなどが影響し、減益となりました。

受注台数（3カ月移動平均）増減率の推移



地域別受注状況（7-9月）

地域	詳細
国内	半導体関連の受注が増加。自動車関連は底打ち感はみられるものの先行きは不透明。
アジア (中国含む)	中国は半導体関連の需要増により伸長。その他アジアは一部地域が米国関税影響などにより設備投資に慎重姿勢。
北米	医療関連が堅調に推移。米国販売拠点の値上げ前の駆け込み需要により大幅増。
欧州	自動車関連の低迷が継続するも医療関連とジョブショップ向けが堅調に推移。

16

こちらは、地域別の受注状況です。折れ線グラフは、受注台数の3カ月移動平均の前年同期比と3カ月前比の増減率の推移です。

スライドの右側は、第2四半期の受注の状況です。地域別にみると、

国内は、半導体関連の受注が増加しました。

アジアでは、中国を除くその他アジアは、一部地域において米国関税の影響などにより設備投資に慎重な姿勢がみられたものの、中国において半導体関連の需要が高まり受注が増えました。

米国は、医療関連が堅調に推移したほか、米国販売拠点で予定している値上げ前の駆け込み需要があり、大幅増となりました。

欧州は、自動車関連の低迷が継続しているものの、医療関連とジョブショップ向けが堅調に推移しました。

ドイツ販売子会社の新本社を建設

- 欧州事業の拡大とサービス体制の強化を目的に新本社をドイツ・オストフィルデルン市に建設
- 延床面積を従来比で2倍に拡張し、欧州全域での販売・サービス体制を強化



Citizen Machinery Europe新本社 完成イメージ

延床面積 : 5,900㎡ (予定) 地上2階建
竣工予定 : 2026年10月

17

工作機械事業のトピックスです。

欧州事業の拡大とサービス体制の強化を目的に、ドイツ販売子会社の新本社をドイツ・オストフィルデルン市に建設します。

欧州は、当社にとって最も重要な市場の一つであり、「中期経営計画」では、新市場開拓として自動車産業の回復や設備投資の拡大を背景に成長が期待される東欧市場での販売強化を掲げています。

新本社は、自動車産業が盛んなドイツ有数の工業都市シュトゥットガルト近郊に位置し、シュトゥットガルト空港からも車で約10分の立地と、ドイツ国内のみならず東欧を含む広域からの交通の利便性も向上します。

本投資により、欧州市場全体の販売体制を一層強化してまいります。

北上事業所の新棟竣工 大型機需要の高まりに対応し、生産能力を2割増強

- 航空機業界や自動車業界などを中心に、主軸径の大型機に対する世界的なニーズの高まりへの対応
- 北上事業所におけるミヤノブランドの最大生産能力は従来比2割増



北上事業所 新棟外観

延床面積 : 5,200㎡ 地上2階
本格稼働 : 2026年4月(予定)

18

2つ目のトピックスです。

ミヤノブランドの生産能力増強を目的として建設を進めていました北上事業所内の新棟が完成し、2025年10月7日に竣工式を執り行いました。

航空機業界や自動車業界などを中心に、より主軸の径の大きい機械に対するニーズが世界的に高まっており、生産スペースの拡充が急務となっていました。

今回の新棟竣工により新たな生産スペースを創出し、既存工場を含めたより効率的なレイアウトを実現させることで、北上事業所の最大生産能力は従来と比べて2割増となります。

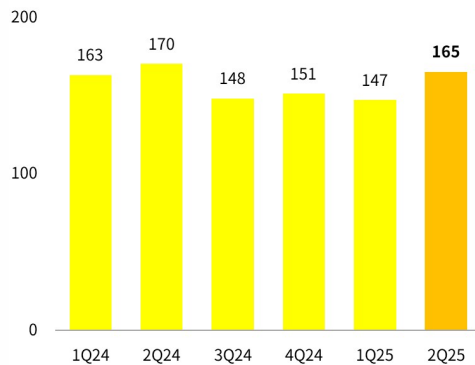
これにより、国内事業所の合計生産能力を月産170台体制へと増強します。

「中期経営計画」で掲げている通り、ミヤノブランドのグローバル販売戦略の推進に取り組んでまいります。

第2四半期（7-9月） 減収減益

- 自動車部品 米国と中国が堅調に推移するも、その他の市場の回復は限定的となり、減収
- 小型モーター 市況の先行きの不透明感から販売が足踏みし、減収
- セラミックス 光通信向けのサブマウント製品などが販売を伸ばし、増収
- プリンター 前年同期に獲得したフォトプリンターの大口受注の反動により、減収

売上高 (億円)



営業利益 (百万円)・営業利益率



19

最後に、デバイス事業です。

売上高は165億円、2.6%の減収、営業利益は12億円、22.6%の減益となりました。

自動車部品は、米国と中国は堅調に推移しましたが、その他の市場の回復が限定的となり、減収となりました。

小型モーターは、市況の先行き不透明感から販売が足踏みし、減収となりました。

セラミックスは、光通信向けのサブマウント製品などが販売を伸ばし、増収となりました。

プリンターは、前年同期に獲得したフォトプリンターの大口受注の反動を受け、減収となりました。

2025年度下期及び通期業績予想



最後に、2025年度下期及び通期業績予想についてご説明いたします。

2025年度 下期及び通期連結業績予想

(単位：億円)	2025年度 5/13予想		2025年度 11/12予想		増減額		増減率	
	下期	通期	下期	通期	下期	通期	下期	通期
売上高	1,630	3,180	1,677	3,270	+47	+90	+2.9%	+2.8%
営業利益	110	200	115	245	+5	+45	+4.9%	+22.5%
営業利益率	6.7%	6.3%	6.9%	7.5%	-	-	-	-
経常利益	120	220	128	290	+8	+70	+6.7%	+31.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	90	200	101	220	+11	+20	+12.4%	+10.0%
為替レート	¥145/USD	¥145/USD	¥145/USD	¥146/USD				
	¥160/EUR	¥160/EUR	¥170/EUR	¥168/EUR				

為替影響額 (1円円安の年間影響額)

	USD	EUR
売上高	+7.5億円	+2.6億円
営業利益	+2.4億円	+1.3億円

通期の連結業績予想でございますが、上方修正をいたしました。

売上高は90億円増の3,270億円、営業利益は45億円増の245億円、経常利益は70億円増の290億円、親会社株主に帰属する当期純利益は、20億円増の220億円と、それぞれ上方修正しております。

2025年度 下期及び通期連結業績予想 セグメント別業績推移

CITIZEN

(単位：億円 / %：営業利益率)

	2025年度 5/13予想		2025年度 11/12予想		増減額		増減率	
	下期	通期	下期	通期	下期	通期	下期	通期
売上高								
時計事業	935	1,800	966	1,860	+31	+60	+3.3%	+3.3%
工作機械事業	385	755	404	790	+19	+35	+5.1%	+4.6%
デバイス事業	310	625	306	620	▲3	▲5	▲1.1%	▲0.8%
合計	1,630	3,180	1,677	3,270	+47	+90	+2.9%	+2.8%
営業利益								
時計事業	98 (10.5%)	185 (10.3%)	102 (10.6%)	220 (11.8%)	+4	+35	+4.4%	+18.9%
工作機械事業	35 (9.1%)	60 (7.9%)	37 (9.2%)	64 (8.1%)	+2	+4	+6.9%	+6.7%
デバイス事業	9 (2.9%)	20 (3.2%)	7 (2.6%)	24 (3.9%)	▲1	+4	▲12.9%	+20.0%
消去又は全社	▲32	▲65	▲32	▲63	+0	+2	-	-
合計	110 (6.7%)	200 (6.3%)	115 (6.9%)	245 (7.5%)	+5	+45	+4.9%	+22.5%

*2025年度より電子機器他事業は「デバイス事業」に集約。2024年度実績はデバイス事業と電子機器他事業を統合し「デバイス事業」として表記。時計事業についても一部変更あり。

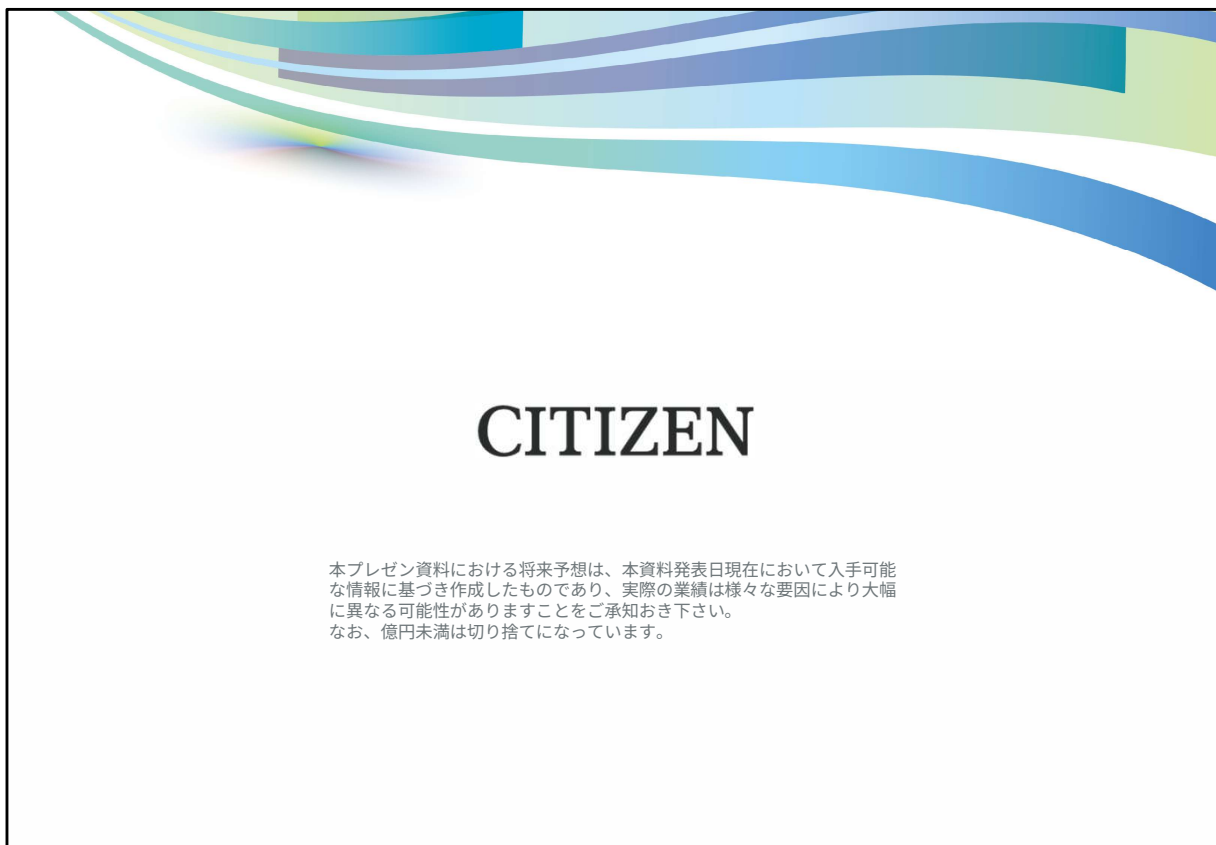
22

下期の業績予想につきまして、事業別に修正のポイントをご説明いたします。

時計事業の状況は先ほどご説明した通りでございますが、下期におきましても、完成品販売では北米の好調継続を見込んでいるほか、機械式ムーブメントも堅調に推移しており、売上高、営業利益共に上方修正いたしました。

工作機械事業も、緩やかながらも受注が回復しており、上方修正しております。

また、デバイス事業につきましては、下期はやや減益となっておりますが、上期の上振れにより通期では増益を計画しております。



以上となります。